

ネパール仏教寺院 一輪廻転生

仏教で生まれ変わりのことを輪廻転生といいます。人は生前の^{おこな}行い(業=カルマ、カルマン)によって死後も別の世界に生まれ変わり、これを永遠に繰り返すという思想です。輪廻転生は、バラモン教から仏教が引き継いでいるものです。同様にバラモン教から発展したヒンドゥー教にも輪廻思想が反映されています。

六道輪廻^{ろくどうりんね}（バヴァ・チャクラ）は、仏教の根本思想である輪廻転生^{こんぽんしそう}を表しています。



▲六道輪廻図は、本堂1Fの壁に描かれています。

六道輪廻図には、人間のもつ^{ほんのう}煩惱の3つの代表である「欲」と「怒り」と「愚かさ」の象徴として、^{にわとり}鶏・^{へび}蛇・^{ぶた}豚が描かれています。



「鶏」、「蛇」、「豚」はどこに描かれているのか、よ〜く見て探してみましょう！

六道輪廻の世界 — 無限に再生をくり返す

仏教では、すべての生ある物は死後もなんらかの形で存続するという普遍的信念があり、その一つの形態が輪廻転生です。生き物は死後、生前の行いに従ってしかるべき死後の世界に生まれ変わります。この輪廻する世界は、6つあるとされ、「六道」と呼ばれます。六道への生まれ変わりの連続を「六道輪廻」といいます。

- ・「地獄道」：殺生や盗みなどの罪を犯した者が堕ちる恐怖と苦しみの世界
- ・「餓鬼道」：飢えと渇きに悩まされ、栄養失調の餓鬼がいる世界
- ・「畜生道」：動物の住む世界
- ・「阿修羅道」：争いや戦闘が絶えず起きている世界
- ・「人道」：人間界のこと
- ・「天道」：天人が住む世界。「天道」は苦しみのない世界ですが、死後はまた他の世界に生まれ変わることにになります。

生前の行いにより生まれ変わる世界が決まり、善い行いをすればよい結果に、悪い行いは悪い結果につながるという「因果応報」とも関係します。

解脱 — どうすれば永遠の苦しみから逃れるのでしょうか

仏教は、「生きていることは、苦しみである」と考えます。そして、輪廻する世界にとどまることは、いつまでも煩惱の世界で苦しみ続けることを意味します。

苦しみの原因は悩みや迷いなどの煩惱であり、煩惱をすべて滅すことができれば、輪廻から抜け出すことができます。仏教では、これを解脱といいます。煩惱の束縛から解放されて、永遠の安らぎの境地（涅槃）に至ることが、仏教の究極の目標です。ちなみに、煩惱から解脱し、安楽の境地にいたった存在がブッダです。

